

2017.10.23

「9条強引な論議許さない」 「戦わないう筋通して」

改憲勢力8割で戦争体験者ら

衆院選は自民、公明の与党が衆院定数の三分の二を維持し、希望の党など改憲に前向きな勢力が八割近い議席を占める結果になった。安倍晋三首相は十二日夜、「与党だけで発議することは考えていない」と述べたが、今後、議論が加速するのは必至だ。東海地方の九条の会の関係者や戦争体験者らは今回の選挙結果をどう受け止め、国会でどんな議論を望むのか。

元岐阜大教授で岐阜・九条の会代表世話人の吉田千秋さん(80)＝岐阜県各務原市＝は「九条に自衛隊を付記する強引な議論は絶対に許さない」。選挙で九条改憲に反対する立憲民主党が躍進したことや、出口調査などで改憲に慎重な有権者が多かったことを踏まえ、「平和を求める市民の力が、やわなものじゃないことを見せていかなければ」と話した。

名古屋大名誉教授で市民団体「あいち九条の会」の水田洋さん(69)＝名古屋市名東区＝も「今まで漠然としていた『安倍改憲』が具体的な議論に入る。野党は自民に切り込んだ議論を展開してほしい」と求める。

空襲を体験した愛知県一

宮市の主婦三溝佐和子さん(63)は「九条は変えない、という大前提で、北朝鮮問題などの現実に合わせて何ができるのかを考えてほしい」と注文。「九条が日本の平和を守ってきた。ひきよつかもしれないが『日本は戦わない』という筋だけは通してほしい」と話した。

六歳のときに空襲を体験した元三重県職員の前道世直さん(67)＝津市半田＝は、安倍政権下での安保法制や「共謀罪」法の強行採決に危機感を募らせ、選挙期間中は毎日、津駅前でマイクを持ち、憲法九条の意義を訴えてきた。「九条を堅持するのか、戦争できる国にするのか、歴史的岐路に立たされていると思う」と語った。